年　　組　　番　氏名

清潔保持の介護　清拭（全身）

日時	平成　　年　　月　　日（　）	天候	
身だしなみ	○×をつける　　実習着（　　）シューズ（　　）頭髪（　　）爪（　　）		
目的	左片麻ひの利用者に対して，全身の清拭を行う。		
必要物品	洗面器，ピッチャー，ウォッシュクロス，浴用タオル，湯（５０～５５度） 石鹸，バスタオル，毛布，防水シーツ，（新しい衣類，バケツ，ビニール）		
利用者の状態	○○○○さん（８８歳）　左片麻ひ，発熱があり入浴を控えている。汗をかいたため上肢，背中の清拭を行うことになった。発語もなく，問い掛けにはうなずく程度である。		

１　入浴・清潔保持の主な効果

・　皮膚の清潔と感染防止効果
・　血行促進と保温効果
・　筋肉の負担軽減効果
・　安眠効果
・　心理的効果
・　人間関係の維持・改善効果

２　清拭（全身）の留意点　　（顔の清拭の留意点と同様）

・<u>プライバシーの保護</u>

※どのようにすればプライバシーを保護できるか

・各関節を保持しながら行う。
・末梢から中枢部へ向けて拭いていく。

３　全身清拭の順番

顔面　→　上肢　→　胸部・腹部　→　背部　→　下肢　→　陰部

手順　（　**上肢・背中の手順**　　）

援助の要点・ポイント

1　サービス利用者に清拭了解を得る。

2　必要物品を準備し，安全確認，環境整備を行う。

→　必要物品を使いやすいように配置する。

（手の届く範囲）

（介護用ワゴンの上）

3　防水シーツを敷く。

⑴ 敷く位置はベッドの真ん中よりやや上。

⑵ 手前半分を敷いて，残りを利用者の体の下へ入れ込む。

⑶ 反対側へ回り，シーツを引き出し敷く。

（必要であれば背面法を行う）

4　衣服を脱ぐ。

※　麻ひがある場合　→　脱健着患

※　プライバシーを保護し，肌の露出を避ける。

※　体を保温する。

⑴ 毛布やタオルをかける。

⑵ 健側を脱ぎ，脱いだ衣類を利用者の体の下に入れ込む。

援助の要点・ポイント

5　上肢を拭く（健側→対面法→患側の順）

⑴ 浴用タオルで蒸しタオルを作る。

⑵ 蒸しタオルで腕全体を包む。

⑶ ウォッシュクロスを作り，石けんをつけ泡立てる。

⑷ ウォッシュクロスで腕を洗う。（末梢から中枢へ）

⑸ 浴用タオルで石けんを拭きとる。（２回）

・利用者を側臥位にし，患側の服を脱いでもらい，同様の手順で清拭を行う。

拭くときの留意点

ア　手を拭く

イ　手首から肘

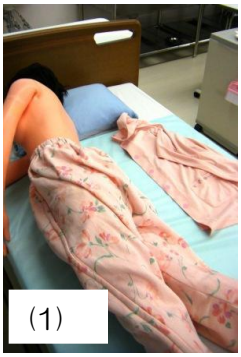
ウ　肘から肩

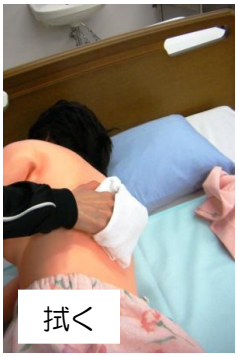
エ　脇

6　背中を拭く。（利用者が側臥位の状態のまま）

⑴ 新しい服を背たたみにし，置く。

⑵ 清拭の手順は上肢と同様である。





7　着替えの服を着せ，防水シーツを外す。

⑴ 患側の腕を通し，襟・脇を合わせる。

⑵ 健側の服を体の下に入れ込む。

⑶ 患側の防水シーツを外して丸め，体の下に入れ込む。

ア　サービス利用者を仰臥位にする。

イ　防水シーツを引き出しランドリーボックスに入れる。健側の服は，自分で着てもらう。

8　体調の確認をする。

自己評価チェックシート

評価	○△×
挨拶，介護の内容の説明は大きな声で話せたか	
プライバシーの保護に気を配ることができたか	
無理のない衣服の着脱ができたか	
上肢を拭く手順を守れたか	
背部の拭く手順を守れたか	
サービス利用者の残存機能を活用するような声掛けを行ったか	
体調確認を行ったか	

感想・反省